

【第78回生涯教育講座】

病 理 学 と 研 究

はら だ たか ゆき
原 田 孝 之キーワード：実験病理学，ノーベル賞，アポトーシス，
ヘリコバクターピロリ，疾患モデル動物

はじめに

島根大学医学部（旧島根医科大学）におかれて
いる島根大学図書館医学分館には，安来市にある
大森家より寄贈を受けた約200年前の医学文献資
料約600点が大森文庫として丁寧に保管されてい
る。この資料は，1804年世界で初めて全身麻酔の
もとに乳がん手術を行なった紀州の華岡青洲のも
とで医師としての修練を行なった大森家第三代不
明堂三楽（1771-1857），四代三益（1819-1881）
ほかが記録し収集した文献資料など，日本の医学
の歴史をひも解く上の第一級の貴重な資料であ
る。その内容は，修練の様子の記録，実際の診断
治療の記述，薬草のスケッチや使用法など多岐に
わたっているが，この資料を長年かけて読み解い
ておられる出雲市立窪田小学校校長の梶谷光弘先
生が発表された文献^{1,2)}や，医大の学園祭などでお
話をされた様子を記録したDVD³⁾からもその歴
大な資料の一端を知ることができる。この中に病
理学に関連した記述があり，例えば乳がんに関連
する事柄として良性から悪性にわたる乳房の腫瘍
性病変とその鑑別の記載も見ることができる。こ

のとき乳がんは，「乳岩」
と記されていて，がんを
表す漢字「癌」本来の意
味が，巖（岩）のような
硬いものであり，病変の
観察とその表現を基にし
た病名の成り立ちを考察
する上でも興味深い。資
料の中には「病学通論」



図 1

わが国最初の病理学書。
緒方洪庵著「病学通論」
1849年刊。

があるが，これはオランダからもたらされた最初
の病理学の教科書の翻訳書として，日本の病理学
の歴史では常に取り上げられる書物である（図
1）。「病理学」とは pathology の訳語であるこ
とは言を待たないが，そもそも pathology とい
う語の成り立ちはどのようなものであろうか。ア
リストテレスの修辞学（rhetoric）では，pathos
（情念），ethos（信念，指導原理），logos（言葉）
の三要素を持って聞くものに訴えかける。その
pathos は特に悲しみの情念 suffering が強調さ
れ pathosis（病的状態）という言葉につながり，
一方 logos は言葉で表すこと，すなわち言葉は
学問 - ology の基盤であり，両者が合わさって
pathology という言葉が生まれた。一方日本語
の「病理学」は，大阪大学医学部の前身となる蘭
学塾・適塾を主宰した緒方洪庵（1810-1863）が，

Takayuki HARADA

島根大学医学部病理学講座器官病理学

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89 - 1